

トピックス

北陸新幹線鉄道騒音調査

今年の3月14日に北陸新幹線が金沢駅まで延伸されました。金沢市がぐっと近くなり、是非行ってみたいものです。県ではこれまでも北陸新幹線沿線において、関係自治体の協力を得て、新幹線鉄道騒音の調査を実施してまいりました。この調査は新幹線鉄道騒音の環境基準の達成状況を把握するためのもので、「新幹線鉄道騒音測定・評価マニュアル（平成22年5月）」に基づき、実施しています。

調査の方法は、原則として上下合わせて連続して通過する20本の列車について騒音の最大値を測定し、その大きさの上位半数のものについて平均したものが、その地点の評価値となります。



写真 長野市での測定の様子

軽井沢駅から長野駅までの長野駅以南の区間では、昨年度まで14地点の調査を行ってきており、昨年の達成状況を見ると、測定した14地点中4地点で環境基準が未達成でした。

今年度の調査を現在実施しているところですが、3月に金沢駅まで新幹線が延伸したことによるダイヤ編成の変更によって列車本数が大幅に増加してい

ます。

また、運行されている車両も昨年度の調査時点ではほとんどが8両編成のE2系でしたが、現在はほぼすべてが12両編成のE7系となっています。

この運行車両の変更により、車両が長くなったことから騒音が長く続くことになり、仮に最高速で通過した場合は、騒音のピークが継続する時間が約3秒から約4秒となり長くなります。

さらに、県内の途中駅を通過する車両が増加しています。これまでは、駅に停車するために減速していた車両が駅を通過することで、大きく減速せずに通過していくこととなります。この結果低速走行時には騒音がかなり小さくなっていたものが、大きな騒音を発して通過する列車の本数が増加しました。

このように、金沢駅までの営業区間の延伸による運行形態の変更によって、長野駅以南では騒音に関する状況がこれまでとは大きく変わってきています。

なお、長野駅以北の新たに開業された区間では、今年度が初めての調査となり、調査地点の周辺状況等も含め、その結果を現在とりまとめているところです。

騒音は非常に身近な環境問題で、住民の関心も高く、長野駅以南、以北ともに今後も調査を継続して環境基準達成状況について把握していく予定です。

（鹿野 正明 kanken-taiki@pref.nagano.lg.jp）